

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：10-12月期ユーロ圏GDP速報

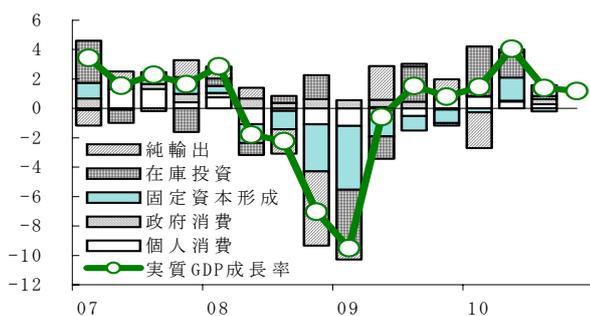
発表日：2011年2月16日(水)

～寒波による経済停滞が響いたが、ユーロ圏全体では緩やかな景気拡大が持続～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

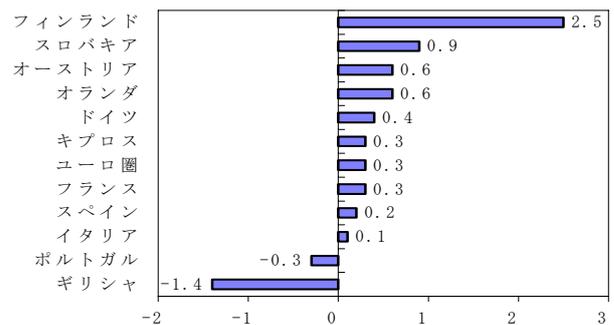
- ・ 昨年10-12月期のユーロ圏の実質GDP成長率（速報値）は前期比+0.3%と事前予想（同+0.4%）をやや下振れ。成長ペースは前期同様に足踏みが続いたが（左図）、ユーロ圏全体でみれば緩やかな景気拡大が続いている。これまで景気回復を牽引してきたドイツやフランスなど経済規模の大きい国を中心に、記録的な寒波の影響で12月の建設・消費活動が下押しされたことが響いた模様だ。
- ・ 国別には公表11ヶ国のうちギリシャとポルトガルを除く9ヶ国がプラス成長（右図）。スペインの景気の落ち込みが一服したものの、追加緊縮策の影響からポルトガルが再びマイナス成長に陥ったほか、イタリアも生産活動の低迷が響き成長ペースが鈍化した。一方、輸出の好調が続くフィンランド、オーストリア、オランダ、ドイツなど北部欧州や、ドイツ向け輸出で潤うスロバキアなど中東欧が堅調。
- ・ ユーロ圏の景気回復を牽引してきたドイツの成長率は前期比+0.4%と前期（同+0.7%）から一段と減速した。需要項目別の詳細は24日に発表されるが、連邦統計局の発表によれば、天候不順の影響で建設投資が大きく下振れした一方、外需、個人消費、機械設備投資がプラス寄与となったとのこと。
- ・ 月次指標の推移からは、1-3月期入り後も景気は緩やかな拡大基調を維持していることが示唆される。天候要因による今回の下振れは、1-3月期もしくは4-6月期の成長率に反動増として現れよう。但し、四半期の最終月が大幅に下振れたことで、月次換算した場合の1-3月期の成長率はマイナスのゲタを履いていると考えられ、四半期で通算した成長率の回復を頼りないものにする恐れがある。

■ ユーロ圏実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■ 2010年10-12月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目 GDP	実質 GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本 投資	在庫	輸出	輸入		
09/4-6月期	▲ 0.7	▲ 0.6	(▲ 2.9)	0.2	2.3	▲ 8.9	(▲ 1.5)	(2.3)	▲ 4.9	▲ 10.3
09/7-9月期	2.0	1.5	(1.3)	▲ 0.9	2.1	▲ 4.8	(2.4)	(0.2)	9.2	8.9
09/10-12月期	1.0	0.8	(▲ 0.5)	1.1	▲ 0.4	▲ 4.6	(▲ 0.2)	(1.3)	8.2	4.8
10/1-3月期	2.7	1.5	(3.9)	1.4	0.2	▲ 1.4	(3.4)	(▲ 2.4)	11.0	18.0
10/4-6月期	5.6	4.1	(3.9)	0.8	0.3	8.3	(1.7)	(0.2)	18.6	18.4
10/7-9月期	3.1	1.4	(0.6)	0.5	1.6	▲ 1.1	(0.2)	(0.8)	7.9	6.2
10/10-12月期	-	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。